



看護ケア推進たより 21号

2019年2月

輝く JCHO ブルー 新春かくし芸大会

『輝く JCHO ブルー』と表す由来

JCHO に移管した 2014 年は、青い JCHO マークを新参者を皮肉るかのように、みんなで「JCHO ブルー」と呼んでいました。新病院移転直前の 2015 年 1 月、下福島公園から夜空に輝くブルーの「JCHO 大阪病院」の看板を見た頃から、いつしか、マークを仲間として認めてあげようという感覚に変わっていきました。人ではない単なるマークに対してこんなに大げさな反応を示す自分たちに驚いたものです。そして、JCHO の仲間や組織にも誇りをもてるようにしていきたい!! 大阪厚生年金病院時代のように。こう思い、職種や部門に関係なく、だれでもすぐに仲間になれるネットワークを広げる活動を 2017 年 8 月に『輝く JCHO ブルー』と命名しました。ご協力の程、よろしくお願いいたします。



(看護部長 田中小百合)

厚生年金病院時代から培われてきた部門間や部署間の繋がりを深めるため、まず第一弾として 2019 年 1 月 18 日(金)に『輝く JCHO ブルー新春かくし芸大会』を開催しました。縁の下の力持ちとして働く 6 組の方々がエントリーし、会場は拍手喝采で幕を閉じました。詳細は看護部公式 Instagram (JCHO Osaka Ns unit) をご覧ください。院長の勧めもあって、第二弾は医師・看護師・コメディカル・事務に加え、患者さんも巻き込み病院全体で取り組んでいきたいと思っておりますので、多数のご参加よろしくお願いいたします。

【審査結果】

(手術室 看護師長 藤原千佳)

1 位	「今日から俺は」(日本ステリ)	学ランとセーラー服姿の平均年齢??歳のダンス
2 位	「落語 時そば」(ダスキンヘルスケア)	セミプロと言える完成された落語
3 位	「ジュディマリのそばかす」(13 東看護補助者)	本格的なエレキギターと美しいハーモニー
4 位	「なんちゃってロープマジック」(日本経営)	
5 位	「パジャママンのマーチ」(ワタキューセイモア)	アンパンマンマーチの替え歌
6 位	「種なしマジック」(グリーンホスピタル)	マジックとは程遠い出来栄でした

【参加者からひと言】

- この年になって、学ラン・セーラー服を着ることになるとは思っていませんでした。みんなで息を合わせて踊るのは難しかったですが、やるからには日本ステリの息の合った姿を見せたくて頑張りました。当日は息がぴったりの踊りが披露でき、見事 1 位となることができました。また、普段関りのない部署の方々の芸を見ることも楽しかったです。(日本ステリ 薦田さん)
- 人前で芸をするなんて機会はあまりないので、朝から気が気ではありませんでした。成功するか否かでドキドキしながら参加しました。来年も同じような会があると聞いているので、それまでに芸を磨いておきたいと思っております。(グリーンホスピタル 有元さん)



JCHO 学会優秀賞を受賞

BPC マニュアルを協働して作成した副看護師長会の取り組み



2015年5月、新病院に移転した時点で、既存の災害マニュアルが新しい病院の設備や機能に合っておらず、実際に活用できない、という問題が明らかになりました。また自衛消防訓練等で、防災設備や避難方法など、職員の防災に関する知識が乏しいことも分かりました。このままでは災害に病院として対応できないと考え、2016年4月より、看護部副看護師長会で取り組みを開始しました。当初は副看護師長会のみでの取り組みでしたが、多職種と協働することで、2017年院内災害マニュアルを完成させることができました。また、全職種対象の防災教育を行うことで、

防災意識と対応能力の向上につなげることができました。

今回の賞は、多くの方のご協力、ご支援によって戴くことができました。そして、賞を頂いたことで、この活動の価値を再認識し、当時感じた達成感を思い出すことができました。今後も副看護師長会の活動だけにとどまらず、多職種と協働しながら様々なことに積極的に取り組んでいきたいと思えます。（集中治療室副看護師長 上村千恵）



第4回 JCHO 地域医療総合医学会 発表！！

2018年11月16・17日に開催されたJCHO学会で、看護部は多くの発表を行いました。発表演題と発表者は以下通りとなっております。

演題名	発表者
「看護の質評価委員会」3年間の活動実績と課題	副看護部長 古田由美子
病棟構造の変化前後の転倒・転落率の変化	13 東病棟看護師長 森本富美子
暴言・暴力発生時の対応方法と診療不可能患者リスト登録手順作成・周知による職員の行動の変化	医療安全管理室 看護師長 堀美和子
より早くナースコール対応するための取り組み	SCU 看護師長 中島佐和
急性期病院における特定行為実践の実際	ICU 看護師長 中村明美
BPC マニュアルを協働して作成した副看護師長会の取り組み	ICU 副看護師長 上村千恵

終末期がん患者の褥瘡発生減少に向けた褥瘡チームの活動 褥瘡予防対策強化前後の褥瘡発生件数の比較	13 西病棟 看護師 中岡亜文
手指衛生回数のための取り組み内容による手指衛生回数の変化	10 東病棟 看護師 春田遥
急性期病院混合病棟における退院支援シートを活用した 退院支援の実際と退院支援シートの活用状況	8 南病棟 看護師 藤原成美
内視鏡洗浄方法の再標準化前後の内視鏡培養検査結果の変化	治療検査外来看護師 宮下正恵
入退院支援の役割～入院前から退院を見据えた支援～	一般外来 看護師 渡部昌美

学会発表者 一言コメント

発表者の方々に学会を終えての感想をお聞きしました。

新病院になり、病棟の構造が変化したことで、転倒・転落率が低くなっていることの要因を考察して、発表しました。夜勤帯でのSCの状況が、発表後の質問に出たので、新病棟の構造に興味をもっていただいたのたと思いました。JCHOの中で大阪病院を知ってもらう機会でもあったので、良かったです。



13 東病棟 看護師長 森本富美子



学会においてポスター発表をさせていただきました。初めての学会発表でありすごく緊張しましたが、無事に発表を終えた時は心からほっとしました。発表まで色々な方にサポートしていただいたことに感謝しています。発表は、私にとって本当に良い経験になったと感じています。この経験を生かした支援が今後もできるようにがんばりたいです。

一般診療外来 看護師 渡部 昌美

2年程前から内視鏡洗浄手順の改訂を行い周知する作業はとても苦労しましたが、みんなが適切な洗浄方法を実施でき、清潔な内視鏡検査を提供できていることに誇りをもちたいと思います。多くのスタッフの支えがあり実践報告をまとめ発表することができ、自分のスキルアップに繋げることができました。本当に感謝しています。



治療検査外来 看護師 宮下正恵



立ち見が出るほど多くの方が発表を聴講に来てくださいました。それだけ、どの施設でも対応に困っていると感じました。発表後、数か所の病院より、取り組みについての問い合わせや講演会の依頼があり、この発表を機に、多くの病院が職員ならびに患者・家族を守れる体制が広まればと思います。

医療安全管理室 看護師長 堀美和子

今回 JCHO 学会で「より早くナースコール対応するための取り組み」を発表しました。看護師長会でPHSの取り組みを開始し、明らかになった問題に対して対策を講じた結果、取り組み前後のナースコール応答時間の変化をまとめたものです。取り組み期間は振り返ると1年以上が経過していました。学会発表に至るとは思ってもみませんでした。現場に還元でき私自身の成長に繋がったと思います。



SCU 看護師長 中島佐和



看護実践を研究的な視点で振り返ることができ、貴重な経験となりました。慣例的に行っている業務も過去の研究のエビデンスに基づいていることを意識するとともに、更なる看護の質向上に向けて検討する姿勢を持ち続けたいと思います。たくさんの方々のご指導やご協力を賜り、ありがとうございました。

8 南病棟 看護師 藤原成美



第23回 ケア連携の会 報告

今年度のケア連携の会では、在宅での看取りに関連する講演や事例を取り上げてきました。第21回では、中村クリニック院長の中村幸生先生に、在宅医療についてご講演いただき、今後はより具体的なことを知りたいとのご意見を多数いただきました。

そこで、今回は、在宅看護の視点から看取りについて学びを深めたいと、なごみ訪問看護ステーションの訪問看護認定看護師 山本恵先生を講師に迎え、「みんなで支えよう、在宅ホスピス」をテーマにご講演頂き、地域43名、院内50名、合計93名の方にご参加いただきました。

講演では、最期が近づいている療養者と心身共に張りつめて疲労すご家族へのケアについて、具体的な経験をもとにお話しいただき、病院側からは在宅で得られる支援がイメージできた、在宅側からはそれぞれの立場で自身の活動を振り返りながら学びを深められたという感想をいただきました。

テーマにある、「みんなで支える」ためには、今後とも、病院関係者と在宅医療・看護・介護に携わる者が、お互いの役割・活動を理解し、高め合える関係を築いていけるような企画を続けていきたいと思えます。(医療福祉相談室 室長 三村麻紀子)



輝け！認定・専門看護師 活動中

私たち、救急看護認定看護師・集中ケア認定看護師は院内 CPR コール時、CPR 発生場所に行き、急変時の対応・蘇生処置が円滑に行えるよう看護を実践しています。内容としては、病棟看護師と共に蘇生処置の実施や医師の介助、家族への連絡の確認や他部門との調整を主に活動しています。また、処置後には病棟看護師と共に看護の振り返りを行い、急変時の技術向上に努めています。

現在は、各病棟に伺い、急変時の初期対応が確実に実践できるためにどのように行動すればいいのかを、いくつかのシナリオをもとに病棟看護師と共に考え、より良い急変時の対応が提供できるよう活動を行っています。また、今後はコメディカル対象に初期対応の学習会も実施していく予定です。私は急変時に関わる度に、チームワークが大切であり、他職種が集まるチームが円滑に活動するためには調整役である看護師の役割はとても重要であると感じています。今後も皆さんと共に患者さんの社会復帰を目標に看護を実践していけるよう、努力していきます。

(救急看護認定看護師 松山佳子)

編集後記

JCHO 学会は、大阪病院山崎院長を学会長とし開催されました。看護部から多くの発表がされ、今回は一部の発表者を紹介させていただきました。一人一人が看護に真摯に取り組むことで大阪病院の看護が作られていくのだと感じました。発表に際して、膨大な時間と労力をかけて支援していただいた中野美佳看護師長に深く感謝します。(集中ケア認定看護師 中村明美)